中耕・広面遺跡墳墓群と供献土器（2）

石　坂　俊　郎

前編（1）（石坂2008）では、中耕・広面遺跡墳墓群について、遺構群の展開と出土土器の内容を整理し、両者の相関を概述した。本稿では、遺構単位の遺物出土状況に分け入り、遺構群と遺物群の関係について、さらなる詳述を試みる。記述にあたり、土器の形式名称は前稿のとおりで、続くかっこ内数字は報告書遺物番号である。なお理解の便宜上、土器分類表を縮小再録した（表1）。

6　器種構成の全体像

墳墓出土土器については、墳丘上の遺物の滅失や、長期間開放状態にある周溝への遺物混入などの要因から、本来遺構に帰属した（遺構の意義を意識してそこに配置された）土器の全容を知ることはすこぶる困難が見込まれる。とりわけ中耕遺跡の場合は、時期的に連続する先行集落との重複があり、混入物の存在も予想される。ところで報告書では、調査者による遺物の出土状況所見と評価が詳しく述べられている。ここではそれに拠りながら、遺構単位の土器群について復原と整理を行うこととする。

周溝出土の土器について、「溝外からの流入」等、遺構と無関係と評価された遺物、「投棄」遺物の大部分、また判断が示されていない遺物は対象から除外した。そして溝底直上かそれに近い位置から出土した「遺棄遺物」を主体に、「方台部からの流入・転落」等遺構に直接関連するとみられる遺物を加え対象を選別した（表2）。

その結果、まず出土頻度だが、中耕遺跡では、対象となる68基のうち対象土器10個体以上の遺構は4基（6%）、5以上10個体未満の遺構は4基（6%）、1以上5個体未満の遺構は30基（44%）、個体なし30基（44%）となる（表3）。Ⅱｂ期では、ＳＲ58から多くの土器が出土している一方、他の多くの遺構からも複数の土器が出土している。Ⅲ期になると、ＳＲ13・21が多数の土器を持つ一方、他の遺構では5個体を越えず、特定の遺構に土器が集中する傾向が認められる。Ⅳ期では、土器を持たない遺構が増すことにより、この傾向はよりはっきりする。

ところで広面遺跡の場合、対象の分別については報告書に記述された出土状況の所見が中耕遺跡の場合ほど解釈的でないため、それに沿った絞り込みは、結果的にやや緩やかであると思われる。ここでの選択の基準は、両者の間で統一しきれていないと言わざるを得ない。それでも、中耕遺跡に比べ広面遺跡における出土個体数の多さは傾向の違いと見て良いだろう。中耕遺跡では遺構68基で対象土器122個体、1遺構平均1.8個であるのに対し、広面遺跡では22基で116個体、平均5.3個である。Ⅱｂ期の遺構が土器を持つ傾向は両遺跡で共通するが、広面遺跡では、Ⅲ・Ⅳ期にかけてもその傾向が持続している。対象となる22基のうち10個体以上の遺構は8基（36%）あり、中耕遺跡68基中4基（6%）とは対照的である。以下、5以上10個体未満の遺構は7基（32%）、1以上5個体未満7基（32%）、個体なし0基となる（表4）。

次に組成だが、①壺・広頸壺・脚付広頸壺、②高杯・開脚高杯、③小型器台・高杯状器台、④鉢、⑤甕・甑の5分類として各群の個体数（割合・百分率）を示す（表3・4）。

中耕遺跡（①：②：③：④：⑤）

Ⅱｂ期	35（64）	：5（9）	：7（13）	：5（9）	：3（5）
Ⅲ期	63（61）	：16（13）	：20（20）	：1（1）	：2（2）

Ⅳ期	22（58）	：2（5）	：10（26）	：4（11）	：0（0）
合計	120（61）	：23（12）	：37（19）	：10（5）	：5（3）
広面遺跡					
Ⅱb期	12（37）	：9（27）	：11（33）	：0（0）	：1（3）
Ⅲ期	72（63）	：10（9）	：25（22）	：3（2）	：4（4）
Ⅳ期	32（62）	：3（6）	：10（20）	：1（2）	：5（10）
合計	116（59）	：22（11）	：46（23）	：4（2）	：9（5）

両遺跡共に、総体では概ね①：②：③：④・⑤=6：1：2：1であり、壺・広頸壺が構成の主体となっている。因みに壺・広頸壺のうち最小の1類であるＡａ1・Ａｂ1、また鉢Ａｂは小型器台と組み合わされる場合が多いと考えられる。個々の事例では必ずしも一対で出土してはいないが、総体で見ると、中耕遺跡では前者31個に対し小型器台35個、広面遺跡では34個対42個とやや近い数字になり（表5・6）、小型器台の数の多さは、主体である壺・広頸壺との関連も一因だろう。

次に、量的主体である①壺・広頸壺について、さらに内訳を見ていく（表5・6）。
壺について、形式別の内訳を上記の様式で示す。なお、口縁部が欠失し、形式不明なもの（形式名「？」で表記）は除いている。

中耕遺跡	壺Ａａ	壺Ａｂ	壺Ｂ	壺Ｃ	壺Ｄ	壺Ｅ	壺Ｆ
全体	36（54）	：15（22）	：11（16）	：4（6）	：1（1）	：1（1）	：0（—）
Ⅱｂ期	9（49）	：3（17）	：4（23）	：2（11）	：0（—）	：0（—）	：0（—）
Ⅲ期	24（54）	：10（22）	：7（16）	：2（4）	：1（2）	：1（2）	：0（—）
Ⅳ期	3（60）	：2（40）	：0（—）	：0（—）	：0（—）	：0（—）	：0（—）
広面遺跡	壺Ａａ	壺Ａｂ	壺Ｂ	壺Ｃ	壺Ｄ	壺Ｅ	壺Ｆ
全体	27（53）	：16（31）	：6（12）	：2（4）	：0（—）	：12（—）	：2（—）
Ⅱｂ期	4（45）	：3（33）	：1（11）	：1（11）	：0（—）	：0（—）	：0（—）
Ⅲ期	16（38）	：11（26）	：2（5）	：1（2）	：0（—）	：10（24）	：2（5）
Ⅳ期	7（51）	：2（14）	：3（21）	：0（—）	：0（—）	：2（14）	：0（—）
両遺跡合計	壺Ａａ	壺Ａｂ	壺Ｂ	壺Ｃ	壺Ｄ	壺Ｅ	壺Ｆ
	63（50）	：21（17）	：17（14）	：6（5）	：1（1）	：13（11）	：2（2）

これらを法量が判明するものについて類別で整理すると以下のとおりである。

壺Ａａ

1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類
11	27	11	7	1	0	0

壺Ａｂ

1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類
12	3	4	2	3	2	0

壺Ｂ

1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類
1	1	1	2	2	4	4

壺Ｃ

1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類
0	2	1	0	1	2	0

壺Ｄ

1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類
0	0	0	0	0	0	1

壺Ｅ

1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類
0	3	2	2	3	0	0

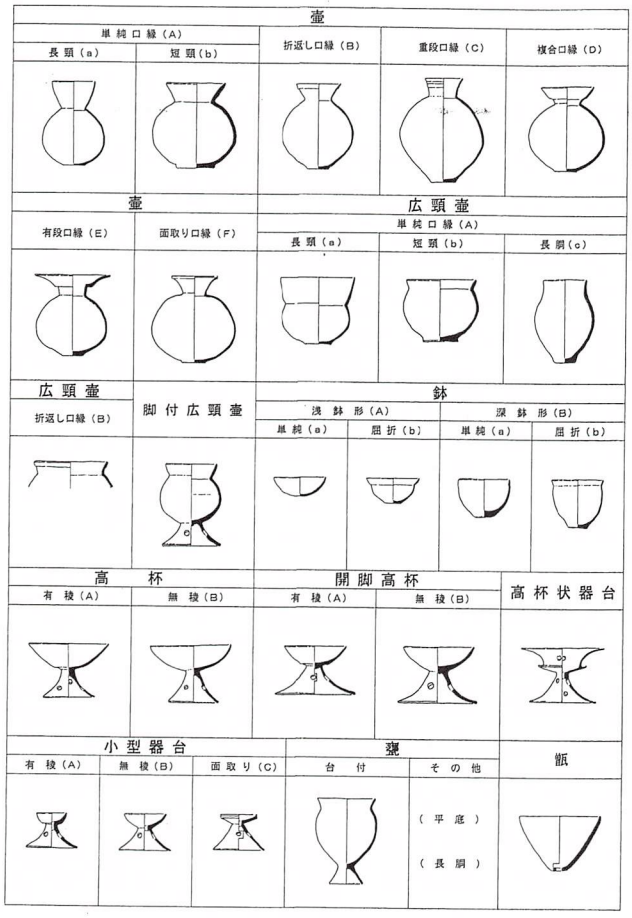
壺Ｆ

1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類
0	0	0	1	1	0	0

壺？

1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類
5	3	1	1	2	4	2

全体的比率では、単純口縁壺Ａが壺の約7割、そのうち長頸壺Aaが同じく5割を占めている。時期別でも各期において主体的だが、広面遺跡Ⅲ期では有段口縁壺Ｅが多くなるため比率がやや下がる。



1類：器高15cm未満　2類：器高15～20cm未満　3類：器高20～25cm未満
4類：器高25～30cm未満　5類：器高30～35cm未満　6類：器高35～40cm未満
7類：器高40cm以上

表1　土器分類表

壺Ａａは「坩」と称される場合もあるが、貯蔵形態を逸脱したように口縁部を発達させ、墳墓出土の類例も多い。いわば祭器として特化された形式と言える。在来の後期弥生土器に系譜はたどれず、東海・近畿地方由来である。やや内湾気味に開くものは前者、直線的に開くものは後者的である。法量は1・2類が67％を占め、5類以上はほとんどない。2類の突出が示すように、広く類例をあたると器高20㎝弱のものが多く、規格性が比較的強いと言える。古墳時代祭祀を特徴づける形式としては、開脚高杯、小型丸底壺（ここでは広頸壺Ａｂ）等小型精製土器群と親縁関係にあると言え、小型の規格性もそれに関連するだろう。

有段口縁壺Ｅは、壺Ａａ同様墳墓出土土器として有力な外来形式だが、中耕遺跡墳墓群ではＳＲ13の1点のみで、対象外としたＳＲ12・42例を含めても3点にとどまる。壺Ａａとは対照的である。一方広面遺跡では、ＳＲ5・12・20・21・22などで良好な例があり、中耕遺跡との対照的な傾向は注目される。面取り口縁壺Ｆも東海以西地方の影響で、少数だが広面遺跡に例が見られる。

吉ヶ谷式由来の重段口縁壺Ｃは最も在来的な形式である。吉ヶ谷式の名残は壺Ｃにとどまらない。単純口縁壺Ａｂ、折り返し口縁壺Ｂ、複合口縁壺Ｄは、弥生時代後期以来南関東から静岡県東部にかけて分布する形式で、壺Ａｂ・Ｂは吉ヶ谷式土器にも見られる。壺Ａｂは1～6類まで例があり、比率は壺Ａａに次ぐ。単純な器形から一括りにしたが、系譜・用途とも一様ではないだろう。大型品ほど破損の可能性が増し、法量を復原出来る資料が小型品に偏る傾向は含んでおかねばならないが、小型品が多い点は、壺Ａａ、広頸壺Ａａとの関連で注意される。壺Ｄはごく少数で、類例としたＳＲ13例も壺Ｅの影響を強く受けていることから、確実なものは無いに等しい。

次いで広頸壺・脚付広口壺の内訳を示す。

中耕遺跡	広頸壺Ａａ	同Ａｂ	同Ａｃ	脚付広口壺
Ⅱｂ期	0（—）	8（67）	3（25）	1（8）
Ⅲ期	1（8）	5（42）	1（8）	5（42）
Ⅳ期	1（14）	3（43）	0（—）	3（43）
計	2（6）	16（53）	4（12）	9（29）

広面遺跡	広頸壺Ａａ	同Ａｂ	同Ａｃ	脚付広口壺
Ⅱｂ期	2（67）	1（33）	0（—）	0（—）
Ⅲ期	10（84）	1（8）	0（—）	1（8）
Ⅳ期	7（57）	3（27）	0（—）	1（9）
計	19（73）	5（19）	0（—）	2（8）

両遺跡合計 21（37）：21（37）： 4（7）：11（19）
総合計では広頸壺Ａａ・Ａｂが同割合で主体を占めるが、吉ヶ谷式由来とみられる長胴広頸壺Ａｃは少数である。法量は、小型品1・2類が9割を占め小型品主体である。ただし長頸広頸壺Ａａには、ＳＺ19例のような中型品もある。また広頸壺には、中・小型品の広がりを持つ折返し口縁広頸壺Ｂ形式が存在するが、対象外としたＳＲ18の1例のみである。脚付広頸壺は中耕遺跡に多い。中耕遺跡では広頸壺Ａｂが、広面遺跡では広頸壺Ａａがそれぞれ入れ替わるかのように主体となっている。広頸壺Ａｂは前述の壺Ａｂ1類と区別しがたい場合もあり、両者は一体的に小型壺群を形成していると言える。形式的には南関東在来的であり、一帯の弥生時代後期～古墳時代前期における小型壺のあり方と関連して注目される（註2）。一方広頸壺Ａａは小型丸底壺系であり、広頸壺Ａｂに対し古墳時代色が鮮明な形式である。壺Ｅ・Ｆなどと共に、壺・広頸壺については、新出的な外来要素が広面遺跡に寄る状況である。

7　器種構成の具体像

出土状況から、土器群の器種構成の具体像を見ていきたい。

中耕遺跡で良好な一括資料として注目されるのは、ＳＲ21・13・58例である。

量的に突出するＳＲ21（Ｂ形・Ⅲ期）では、4辺の周溝（註1）に土器群が展開する（図1・表6）。南溝の遺物群は個体数が最も多く、概ね連続するが内容のまとまりから以下の4群に細分されている（括弧内数字は複数な場合の個体数）。

南溝第1群〈壺Ｂ6、壺Ｂ7、壺Ｃ6、壺Ａｂ3、壺Ａa2（2）、脚付広頸壺〉

南溝第2群〈壺Ａａ2、広頸壺Ａｃ2、広頸壺Ａｂ1、高杯、開脚高杯、小型器台（4）、高杯状器台〉

南溝第3群〈壺？6、壺Ａa3、壺Ｃ3、壺Ａｂ1〉

南溝第4群〈壺Ａa3、小型器台（2）〉

南溝第1群は、大型壺を複数含む貯蔵形態主体土器群である。同第2群は、浅い土壙状掘り込み上に位置する供膳形態主体土器群である。第3群は、浅い掘り窪み中に位置する大型壺を欠く貯蔵形態土器群で、第1群の縮小型と言える。第4群は、中型壺と小型器台で構成された、第2群の縮小型と言える。4群にはいずれも壺Ａａが含まれている。これらについて報告書では、第2群を中心に、その両脇に壺主体の土器群を配置して行われた「祭祀行為を彷彿とさせる」としている（報告書187頁）。

西溝〈高杯、開脚高杯、小型器台（4）〉。供膳形態土器群で、「意識的に直線的に置かれて遺棄された」可能性が指摘されている。

北溝東群〈壺Ｂ？、脚付広頸壺（4）、開脚高杯（2）、小型器台（2）〉、北溝西群〈壺Ａa4、高杯、小型器台〉。北溝東群は脚付広頸壺がまとまっている点が特徴的である。

東溝〈壺Ａa4、壺Ａa3、壺Ａｂ5、壺Ａｂ3、小型器台〉。大型壺を含まない貯蔵形態主体土器群である。西・東溝ともに、南溝各群同様壺Ａａが含まれている。

以上ＳＲ21では、四方の周溝ごとに土器群がまとまりを持ち、量的には南溝に比重がかかる。内容的にも群ごとのまとまりがあり、それぞれ個性と共通点が認められる。

ＳＲ13（Ｂ形・Ⅲ期）では、南・東・西3方の周溝から土器群が出土している（表6・図2上）。

南溝〈壺Ｂ7、壺Ｄ7、壺Ｂ6、壺Ｅ2、壺Ａa3（2）〉

東溝〈壺Ｂ7、壺Ａa4、壺Ａa2（2）、広頸壺Ａｂ2、広頸壺Ａa1、広頸壺Ａｂ1、小型器台〉

西溝〈壺Ａｂ6、壺？、高杯（3）、小型器台（3）〉

三方いずれの群も大型壺を含む点が特徴である。南溝は大型壺3点を含む貯蔵形態土器群で、大型壺が集中する点に注目すれば、南側が祭祀の中心に見える。南に複数の大型壺を含む貯蔵形態土

時期	遺構名	台面	墳形	群	総数	内容(個体数、1点のみの場合省略)	出土位置(点数)	状況	遺物番号
Ⅱb	SR29	45	A	Ⅳ	0				
Ⅱb	SR32	53	A	Ⅲ	8	壺Aa4、高杯2、広頸壺Aa1・Ac1、小型器台(3)	西溝(4)、北溝(4)	一括遺棄、方台部から転落	2、5、6、9、10、11、14、15
Ⅱb	SR39	53	A	Ⅳ	3	壺Ab1、小型器台、鉢Ab	東溝	埋没初期遺棄	3、5、6
Ⅱb	SR53	57	A	Ⅴ	3	壺Ab1、広頸壺Ac4、鉢Aa	北溝	使用場所に遺棄	3、5、7
Ⅱb	SR52	82	A	Ⅴ	6	壺Aa1(2)・Aa2・Ab1・B3、小型器台(1)	東溝(2)、北溝(4)	埋没初期遺棄	2、4、3、5、7、21
Ⅱb	SR59	68	A	Ⅵ	1	壺Ab6	東溝	埋没初期遺棄	1
Ⅱb	SR31	94	A	Ⅲ	0				
Ⅱb	SR34	105	A	Ⅲ	4	壺Aa1(2)、広頸壺Ab1、同?	南溝(2)、北溝(2)	溝底・埋没初期遺棄	6、7～9
Ⅱb	SR12	108	A	Ⅱ	3	壺Aa2、広頸壺Ab2(2)	南溝(3)	遺棄の可能性高	4～6
Ⅱb	SR18	110	A	Ⅲ	2	広頸壺Ab1(2)	南溝、北溝	遺構に伴う	3、4
Ⅱb	SR33	110	A	Ⅲ	4	壺A2・C2(2)、小型器台	南溝(2)、北溝(2)	埋没初期遺棄	1、2、4、7
Ⅱb	SR45	113	A	Ⅳ	1	広頸壺Ac2	西溝	埋没初期遺棄	2
Ⅱb	SR50	125	A	Ⅴ	3	壺B6、高杯(2)	東溝(2)、南溝	埋没初期遺棄、方台部流入	1、4、5
Ⅱb	SR58	-	A	Ⅵ	13	壺Aa1(2)・Ab2・B5、広頸壺Ab1(3)・Ac4、脚付広頸壺、高杯、鉢Aa・Bb(2)、甑	東溝	祭祀使用後遺棄	1、2、4～7、12、16～19、21、22
Ⅲ	SR40	17	A	Ⅳ	0				
Ⅲ	SR24	20	A	Ⅳ	0				
Ⅲ	SR25	22	A	Ⅳ	0				
Ⅲ	SR 8	27	A	Ⅱ	0				
Ⅲ	SR55	30	A	Ⅴ	1	壺B5	北溝	埋没初期遺棄	1
Ⅲ	SR56	35	A	Ⅴ	1	壺Aa2	西溝	埋没初期遺棄	1
Ⅲ	SR46	39	A	Ⅳ	2	壺Aa2・3	西溝	埋没初期遺棄	1、2
Ⅲ	SR14	44	A	Ⅱ	2	壺Aa2、小型器台	南溝、北溝	遺棄、方台部から転落か	1、3
Ⅲ	SR22	45	A	Ⅲ	2	壺?、台付甕	南溝	方台部から流入	2、3
Ⅲ	SR10	48	A	Ⅱ	2	高坏、台付甕	東溝	遺棄	2、4
Ⅲ	SR16	48	A	Ⅲ	1	壺Aa2	南溝	遺棄	1
Ⅲ	SR38	59	A	Ⅲ	0				
Ⅲ	SR27	59	A	Ⅳ	0				
Ⅲ	SR 9	63	A	Ⅱ	3	壺Aa2・3、壺Ab2	南溝	共伴、直線的に並ぶ、共伴	1、2、3
Ⅲ	SR37	69	A	Ⅳ	0				
Ⅲ	SR30	73	A	Ⅳ	2	壺?2、高杯	北溝	方台部崩壊中の転落・遺棄	2、6
Ⅲ	SR36	74	A	Ⅲ	0				
Ⅲ	SR 7	78	A	Ⅱ	2	壺Aa2、鉢Aa	西溝、南溝	遺棄か転落	2、9
Ⅲ	SR35	88	A	Ⅲ	2	壺Aa2・Ab1	東溝、南溝	埋没初期遺棄	1、5
Ⅲ	SR26	93	A	Ⅳ	1	小型器台	東溝	方台部から転落か	15
Ⅲ	SR60	99	A	Ⅵ	3	壺Aa1・Ab2、広頸Ab1	東溝、南溝(2)	埋没初期	1、3、7
Ⅲ	SR17	110	A	Ⅲ	5	壺Aa2・4、同Ab2、同B2・B?	南溝(4)、北溝	埋没初期遺棄	3、4、7～9
Ⅲ	SR48	127	A	Ⅳ	0				
Ⅲ	SR13	132	B	Ⅱ	22	壺Aa1・2(2)・3(2)・4、同Ab6、同B6・7(2)、同D7・E2、同?、広頸壺Aa1・Ab1・2、高杯(3)、小型器台(4)	東溝(8)、西溝(8)、南溝(6)	埋没初期遺棄等	1～4、6、10、11、13～20、22～25、29、30、33
Ⅲ	SR41	170	B	Ⅲ	2	広頸壺Ab1、高杯	東溝	埋没初期遺棄	30、35
Ⅲ	SR21	214	B	Ⅲ	50	壺Aa2(3)・3(3)・4(2)、同Ab1(1)・3(2)・5、同B6・7、同C3・6、同?5・?、広頸壺Ab1・Ac2、脚付広頸壺(5)、高杯(6)、開脚高杯(4)、小型器台(14)、高杯状器台	東溝(6)、西溝(7)、南溝(25)、北溝(12)	各溝で小群ごとのまとまりをもつ。それぞれにありかたの特徴あり、方台部から上層に流入3点	1～4、7～11、14～18、21～23、27～29、43～45、47、48、50～63、67～77
Ⅲ	SR51	-	A	Ⅴ	0				
Ⅲ	SR57	-	A	Ⅵ	0				
Ⅳ	SR63	18	B	Ⅶ	0				
Ⅳ	SR 5	20	B	Ⅱ	0				
Ⅳ	SR23	20	B	Ⅳ	0				
Ⅳ	SR44	21	B	Ⅳ	0				
Ⅳ	SR 4	23	C?	Ⅰ	0				
Ⅳ	SR47	23	B	Ⅳ	0				
Ⅳ	SR65	26	B	Ⅶ	0				
Ⅳ	SR 6	29	D	Ⅱ	1	鉢Aa	南溝	方台部から転落か	2
Ⅳ	SR66	30	B	Ⅶ	0				
Ⅳ	SR68	34	B	Ⅶ	0				
Ⅳ	SR 1	39	B	Ⅰ	4	壺Aa2・Ab2(2)、広頸壺Ab1	東溝	共伴、外方から転落	1～4
Ⅳ	SR43	40	B	Ⅳ	0				
Ⅳ	SR 3	50	B	Ⅰ	0				
Ⅳ	SR64	54	B	Ⅶ	0				
Ⅳ	SR67	59	C	Ⅶ	0				
Ⅳ	SR28	63	B	Ⅳ	2	壺Aa3・B5	南溝	方台部から転落・投棄	1
Ⅳ	SR 2	67	B	Ⅰ	3	壺Aa4・?3、広頸壺Ab1	北溝(2)、北東コーナー	共伴、遺棄	4
Ⅳ	SR54	72	B	Ⅴ	4	脚付広頸壺、小型器台(2)、鉢Aa	西溝(4)	埋没初期遺棄	6、8、9、10
Ⅳ	SR20	73	C	Ⅲ	1	壺Aa4	南溝	方台部から流入	1
Ⅳ	SR15	81	B	Ⅷ	0				
Ⅳ	SR19	89	C	Ⅲ	0				
Ⅳ	SR11	93	B	Ⅱ	2	壺Aa1、広頸壺Aa1	東溝、南溝	遺棄	8、13
Ⅳ	SR42	222	E	Ⅲ	17	壺Aa5・Ab1、?6、広頸壺Ab1同?、脚付広頸壺(2)、開脚高杯、小型器台(6)、高杯状器台(2)、鉢Ba	東溝(8)、南溝(9)	埋没初期一括遺棄、遺棄または流入	3、5、13、16、17、35、37～39、41～45、51、57、58
Ⅳ	SR49	246	B	Ⅳ	0				
Ⅳ	SR61	-	B?	Ⅵ	0				
Ⅳ	SR62	-	B?	Ⅵ	2	壺?、高杯	北溝	高杯が壺を覆っていたか	2、7

表2　中耕遺跡対象土器状況一覧

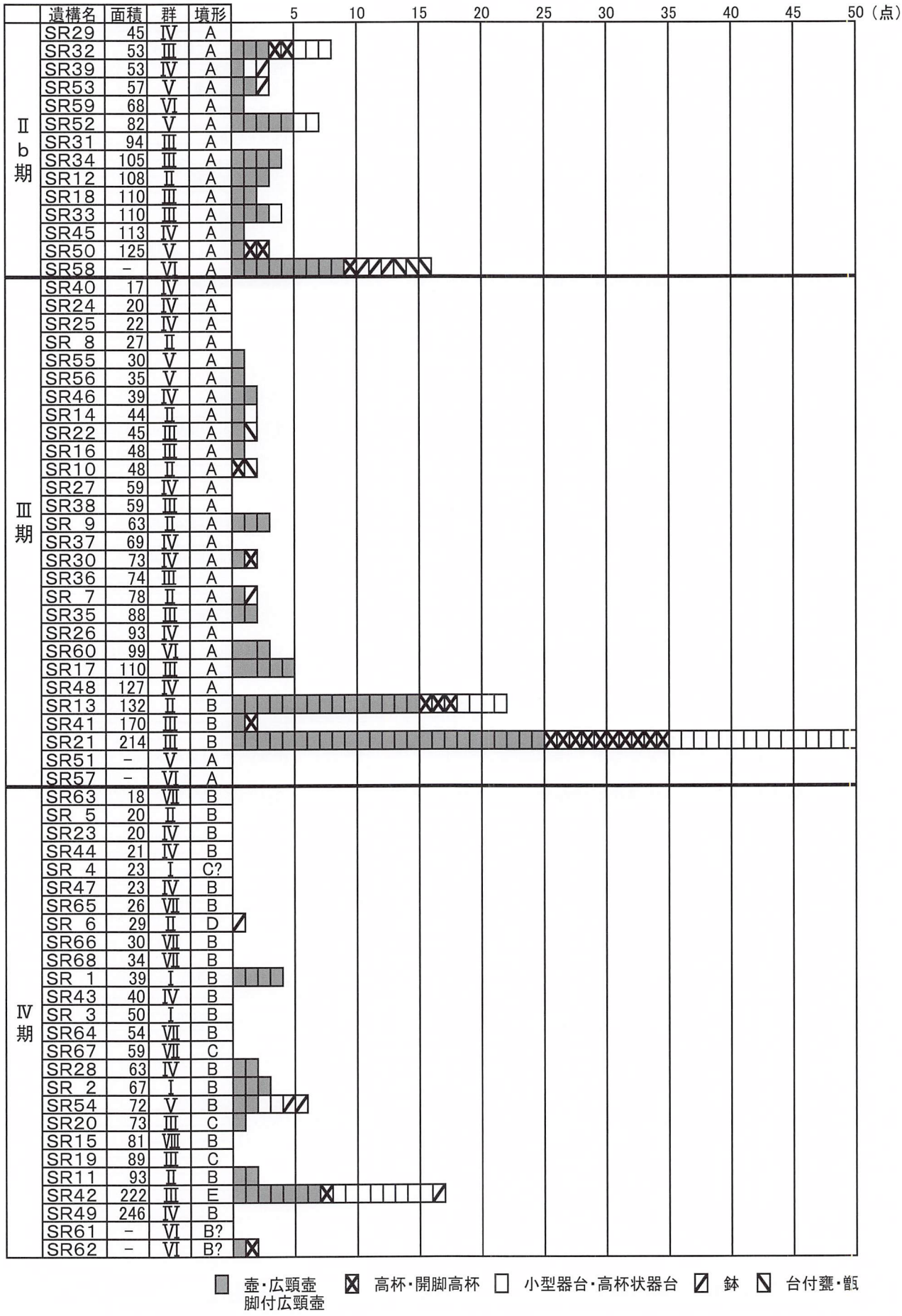


表 3　中耕遺跡対象土器組成表

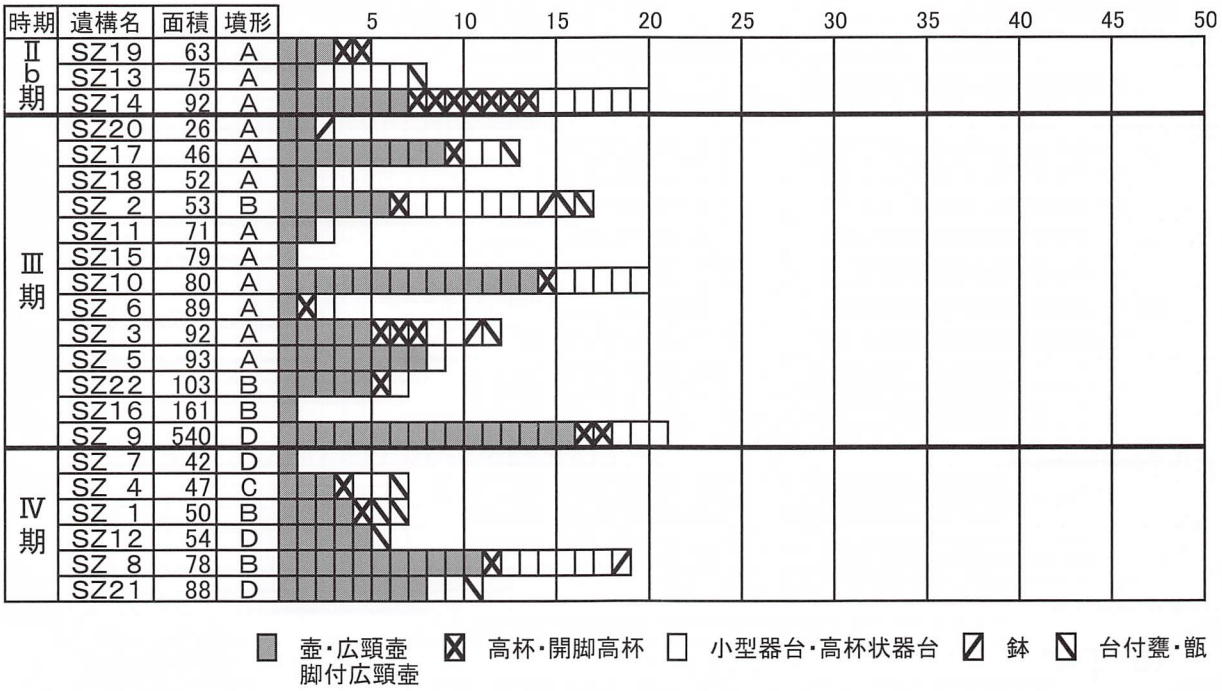


表４　広面遺跡対象土器組成表

器群、西に供膳形態土器群、東に貯蔵形態土器群の配置は、ＳＲ21に共通する。壺Ａａは南・東溝に2・3個体ずつ含まれ、西溝では口縁部を欠失した底部穿孔壺（図2－17）がそれである可能性が高い。ＳＲ13においても、ＳＲ21同様、壺Ａａが主要な構成要素となっていると言える。

ＳＲ58（Ａ？形・Ⅱｂ期）は、遺構の大部分が調査前に消滅しているため全容は不明だが、東溝隅の陸橋部付近から遺存状態の良い土器が集中的に出土している（図2）。

東溝〈壺Ｂ5、壺Ａａ2、壺Ａｂ2、広頸壺Ａｂ1（3）、広頸壺Ａｃ4、脚付広頸壺、高坏、鉢Ａａ、鉢（2）、台付甕（2）、甑〉

吉ヶ谷式土器の特徴を残す中・小型の貯蔵形態土器を主体に供膳形態土器と台付甕・甑で構成される。これらについては「この場での葬送関連祭祀に際し使用されたものがそのまま遺棄された可能性を有する」と指摘されている（報告書250頁）。南東陸橋付近が祭祀の場となる。甑と台付甕2点がセットに加わる点は、煮沸形態土器の参加例として貴重な一例だろう。

共伴土器の個体数が5個以下の遺構では、ＳＲ59（A形・Ⅱｂ期）東溝〈壺Ａｂ6〉、ＳＲ55（A形・Ⅲ期）北溝〈壺Ｂ5〉などで大・中型壺が出土しているが、その頻度は顕著に低くなり、個体数が減ずるにつれ小型壺Ａａ・Ａｂ、小型広頸壺Ａｂが主となり、供膳形態土器がそれらに組み合わさるか、あるいはそれらいずれかのみの構成となる。溝単位では、小型壺あるいは小型広頸壺が単体である場合も多い（表5）。出土位置に顕著な傾向は認められない。これらの遺構の半数強に壺Ａａが含まれており、土器群の構成が小規模になっても壺Ａａは主要要素となっている。

8　墳形と器種構成・配置

前節の出土例に見られたいくつかの特徴的状況について、他の遺構を含めて見ていきたい。

まず特定の溝への遺物集中など、分布の傾向はどうか（以下の括弧内数字は遺物番号）。

ＳＺ10（Ａ形・Ⅲ期）は、南東溝への土器集中が顕著である〈壺Ａｂ6（17）、壺？6か（19）、壺Ａｂ5（21）、壺Ｅ5（3）、壺Ｆ4（18）、壺Ａｂ4（20）、壺Ｅ？（1）、壺？2か（2）、壺？（4）、壺？2（7）、開脚高坏（10）、小型器台（高杯？）（16）、小型器台（11・12・13・14・15）〉。大型壺を複数含む状況は、ＳＲ21・13南溝に共通する。ＳＺ3（Ａ形・Ⅲ期）は、南西溝への土器集中

中耕遺跡						壺																																							広頸壺												脚付広頸壺	高杯	開脚高杯	小型器台	高杯状器台	鉢				甕	甑
期	群	遺構名	台部面積	墳形	出土位置	単純口縁(A)															折返し口縁(B)								重段口縁(C)								複合口縁(D)			有段口縁(E)		?					単純口縁(A)																	浅鉢		深鉢		台付	
						長頸(a)						短頸(b)																																		長頸(a)				短頸(b)				長胴(c)									単純a	屈折b	単純a	屈折b		
						1	2	3	4	5	?	1	2	3	4	5	6	7	?	1	2	3	4	5	6	7	?	1	2	3	4	5	6	7	?	4	7	?	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	?	1	2	3	?	1	2	3	4											
Ⅱb期	Ⅱ	SR12	108	A	南溝		1																																											2																			
	Ⅲ	SR32	53	A	西溝				1																																																	1		2							
	Ⅲ	SR34	105	A	南溝	2																																																														
					北溝																																											1																			
	Ⅲ	SR18	110	A	南溝																																													2																			
					北溝																																																															
	Ⅲ	SR33	110	A	南溝		1													2									2																																						
					北溝																																																					1							
	Ⅳ	SR39	53	A	東溝															1																																						1			1				
		SR45	113	A	西溝																																																1														
	Ⅴ	SR53	57	A	北溝							1																																													1						1					
	Ⅴ	SR52	82	A	東溝	1						1																																																1									
					北溝	1	1															1																																									1							
	Ⅴ	SR50	125	A	東溝																																																						2									
	Ⅵ	SR59	68	A	東溝												1																																																			
	Ⅵ	SR58	－	A	東溝		1						1											1																		1								3								1	1	1				1			2	2	1
Ⅲ期	Ⅴ	SR55	30	A	北溝																			1																																												
	Ⅱ	SR14	44	A	南溝		1																																																												
	Ⅱ	SR9	63	A	南溝		1	1						1																																																							
	Ⅲ	SR20	73	C	南溝				1																																																											
	Ⅱ	SR13	132	B	東溝		2		1																1																							1				1	1											1							
					西溝												1																																										3		3							
					南溝			2																			1	1												1				1																																
	Ⅲ	SR16	48	A	南溝		1																																																												
	Ⅲ	SR35	88	A	東溝							1																																																								
					南溝		1																																																												
	Ⅲ	SR17	110	A	南溝		1					1										1						1																																									
					北溝				1																																																											
	Ⅲ	SR21	214	B	東溝			1	1					1		1																																															1							
					西溝																																																					1	1	4							
					南溝1群		2							1												1	1							1																									1									
					南溝2群		1																																											1					1					1	1	4	1						
					南溝3群			1				1																			1															1																							
					南溝4群			1																																																						2							
					北溝東群																																																					4		2	2							
					北溝西群				1																																																			1		1							
	Ⅳ	SR46	39	A	西溝		1	1																																																											
	Ⅳ	SR26	93	A	東溝																																																							1							
	Ⅳ	SR41	170	B	東溝																																													1										1								
	Ⅴ	SR56	35	A	西溝		1																																																												
	Ⅵ	SR60	99	A	東溝																																													1																			
					南溝	1								1																																																												
Ⅳ期	Ⅰ	SR2	67	B	北溝				1																																		1										1																			
	Ⅱ	SR6	29	D	南東コーナー																																																									1					
	Ⅱ	SR11	93	B	東溝																																									1																							
					南溝	1																																																													
	Ⅲ	SR42	222	E	東溝					1																																			1						1			1					1			3							
					南溝							1																																													1		1	3	2			1			
	Ⅴ	SR54	72	B	西溝																																																					1			2		1					
					南溝								1																																																	1			1				
	Ⅵ	SR62	－	B?	北溝																																																							1								

表５　中耕遺跡地点別対象土器一覧

期	遺構名	台部面積	墳形	出土位置	壺 単純口縁(A) 長頸(a)								壺 単純口縁(A) 短頸(b)							
					1	2	3	4	5	6	7	?	1	2	3	4	5	6	7	?
Ⅱb	SZ19	63	A	南東溝																
Ⅱb	SZ13	75	A	南西溝		1														
				南東溝																
				北東溝																
Ⅱb	SZ14	92	A	南西溝中央																
				南西溝隅								1	1							
				南東溝隅	1										1					
				北西溝																
Ⅲ	SZ20	26	A	南溝																
Ⅲ	SZ17	46	A	南東溝	1															
				南西溝																
				北西溝	2															
				北東溝	1	1														
Ⅲ	SZ18	52	A	東溝																
				西溝																
Ⅲ	SZ 2	53	B	西溝		1	1								1					
				南溝		1														
				北溝北西隅																
Ⅲ	SZ11	71	A	南西溝																
				南東溝		1														
				北西溝																
Ⅲ	SZ15	79	A	南溝								1								
Ⅲ	SZ10	80	A	南東溝												1	1	1		
				北東溝																
				北西溝		1							1							
Ⅲ	SZ 6	89	A	東溝	1															
Ⅲ	SZ 3	92	A	南東溝													1			
				南西溝																1
Ⅲ	SZ 5	93	A	西溝																1
				南溝		1							1							
Ⅲ	SZ22	103	B	西溝								1								
				南溝			1									1				1
Ⅲ	SZ16	161	B	南溝																
Ⅲ	SZ 9	540	D	陸橋周辺				1				1								
				突出部周辺																
				南コーナー			3													
				北西溝																
				北東溝																
Ⅳ	SZ 7	42	D	北溝																
Ⅳ	SZ 1	50	B	南東溝			1													
				北東溝		1														
Ⅳ	SZ12	54	D	陸橋東脇																
				北東溝		1														
Ⅳ	SZ 8	78	B	南東溝																
				南西溝								2								
				北東溝																
				北西溝								1							1	
Ⅳ	SZ21	88	D	陸橋南脇																
				南溝		1							1							

期	遺構名	台部面積	墳形	出土位置	壺 折返し口縁(B)								壺 重段口縁(C)							
					1	2	3	4	5	6	7	?	1	2	3	4	5	6	7	?
Ⅱb	SZ19	63	A	南東溝																
Ⅱb	SZ13	75	A	南西溝														1		
				南東溝																
				北東溝																
Ⅱb	SZ14	92	A	南西溝中央																
				南西溝隅																
				南東溝隅								1								
				北西溝																
Ⅲ	SZ20	26	A	南溝																
Ⅲ	SZ17	46	A	南東溝																
				南西溝																
				北西溝																
				北東溝																
Ⅲ	SZ18	52	A	東溝																
				西溝																
Ⅲ	SZ 2	53	B	西溝																
				南溝																
				北溝北西隅																
Ⅲ	SZ11	71	A	南西溝																
				南東溝																
				北西溝																
Ⅲ	SZ15	79	A	南溝																
Ⅲ	SZ10	80	A	南東溝																
				北東溝																
				北西溝																
Ⅲ	SZ 6	89	A	東溝																
Ⅲ	SZ 3	92	A	南東溝													1			
				南西溝																
Ⅲ	SZ 5	93	A	西溝																
				南溝																
Ⅲ	SZ22	103	B	西溝																
				南溝																
Ⅲ	SZ16	161	B	南溝																
Ⅲ	SZ 9	540	D	陸橋周辺				1				1								
				突出部周辺																
				南コーナー																
				北西溝																
				北東溝																
Ⅳ	SZ 7	42	D	北溝																
Ⅳ	SZ 1	50	B	南東溝																
				北東溝																
Ⅳ	SZ12	54	D	陸橋東脇																
				北東溝																
Ⅳ	SZ 8	78	B	南東溝																
				南西溝				1												
				北東溝																
				北西溝						1										
Ⅳ	SZ21	88	D	陸橋南脇																
				南溝							1									

期	遺構名	台部面積	墳形	出土位置	壺 有段口縁(E)								壺 面取り口縁(F)					壺 ?						
					1	2	3	4	5	6	7	?	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
Ⅱb	SZ19	63	A	南東溝																				
Ⅱb	SZ13	75	A	南西溝																				
				南東溝																				
				北東溝																				
Ⅱb	SZ14	92	A	南西溝中央																				
				南西溝隅																				
				南東溝隅																				
				北西溝																				
Ⅲ	SZ20	26	A	南溝			1	1																
Ⅲ	SZ17	46	A	南東溝																	1			
				南西溝																				
				北西溝																				
				北東溝																				
Ⅲ	SZ18	52	A	東溝																				
				西溝																				
Ⅲ	SZ 2	53	B	西溝																				
				南溝														1						
				北溝北西隅																				
Ⅲ	SZ11	71	A	南西溝																				
				南東溝													1							
				北西溝																				
Ⅲ	SZ15	79	A	南溝																				
Ⅲ	SZ10	80	A	南東溝					1			1				1			2				1	
				北東溝																				
				北西溝																				
Ⅲ	SZ 6	89	A	東溝																				
Ⅲ	SZ 3	92	A	南東溝																				
				南西溝																				
Ⅲ	SZ 5	93	A	西溝																				
				南溝																			1	
Ⅲ	SZ22	103	B	西溝														1						
				南溝					1															
Ⅲ	SZ16	161	B	南溝														1						
Ⅲ	SZ 9	540	D	陸橋周辺		2	1					2						1	1					1
				突出部周辺																				
				南コーナー																				
				北西溝																				
				北東溝																		1		
Ⅳ	SZ 7	42	D	北溝																				
Ⅳ	SZ 1	50	B	南東溝														1						
				北東溝																				
Ⅳ	SZ12	54	D	陸橋東脇					1															
				北東溝																				
Ⅳ	SZ 8	78	B	南東溝																				1
				南西溝																				1
				北東溝																				
				北西溝																				
Ⅳ	SZ21	88	D	陸橋南脇																				
				南溝				1																

期	遺構名	台部面積	墳形	出土位置	広頸壺 単純口縁(A) 長頸(a)				広頸壺 単純口縁(A) 短頸(b)				脚付広頸壺	高杯	開脚高杯	小型器台	高杯状器台	鉢 浅鉢 単純 a	鉢 浅鉢 屈折 b	甕 台付
					1	2	3	?	1	2	3	?								
Ⅱb	SZ19	63	A	南東溝			1		1						2					
Ⅱb	SZ13	75	A	南西溝												2				1
				南東溝												2				
				北東溝												1				
Ⅱb	SZ14	92	A	南西溝中央	1									1	1	2				
				南西溝隅										3		2				
				南東溝隅												1				
				北西溝												1				
Ⅲ	SZ20	26	A	南溝														1		
Ⅲ	SZ17	46	A	南東溝	1									1		1				
				南西溝					1											
				北西溝	1											1				
				北東溝										1						1
Ⅲ	SZ18	52	A	東溝												1	1			
				西溝	1											1				
Ⅲ	SZ 2	53	B	西溝	1									1		3				1
				南溝												2				1
				北溝北西隅	1											2			1	
Ⅲ	SZ11	71	A	南西溝																
				南東溝																
				北西溝												1				
Ⅲ	SZ15	79	A	南溝																
Ⅲ	SZ10	80	A	南東溝											1	5				
				北東溝	1															
				北西溝																
Ⅲ	SZ 6	89	A	東溝										1		1				
Ⅲ	SZ 3	92	A	南東溝	1															
				南西溝	1									2	1	2		1		1
Ⅲ	SZ 5	93	A	西溝									1							
				南溝	1											1				
Ⅲ	SZ22	103	B	西溝										1						
				南溝										1		1				
Ⅲ	SZ16	161	B	南溝																
Ⅲ	SZ 9	540	D	陸橋周辺										1						
				突出部周辺												3				
				南コーナー	1															
				北西溝										1						
				北東溝																
Ⅳ	SZ 7	42	D	北溝					1											
Ⅳ	SZ 1	50	B	南東溝																2
				北東溝											1					
Ⅳ	SZ12	54	D	陸橋東脇	1															1
				北東溝																
Ⅳ	SZ 8	78	B	南東溝	1											1			1	
				南西溝	2											1				
				北東溝									1	1						
				北西溝												4				
Ⅳ	SZ21	88	D	陸橋南脇																1
				南溝	3				2							2				

表6　広面遺跡地点別対象土器一覧

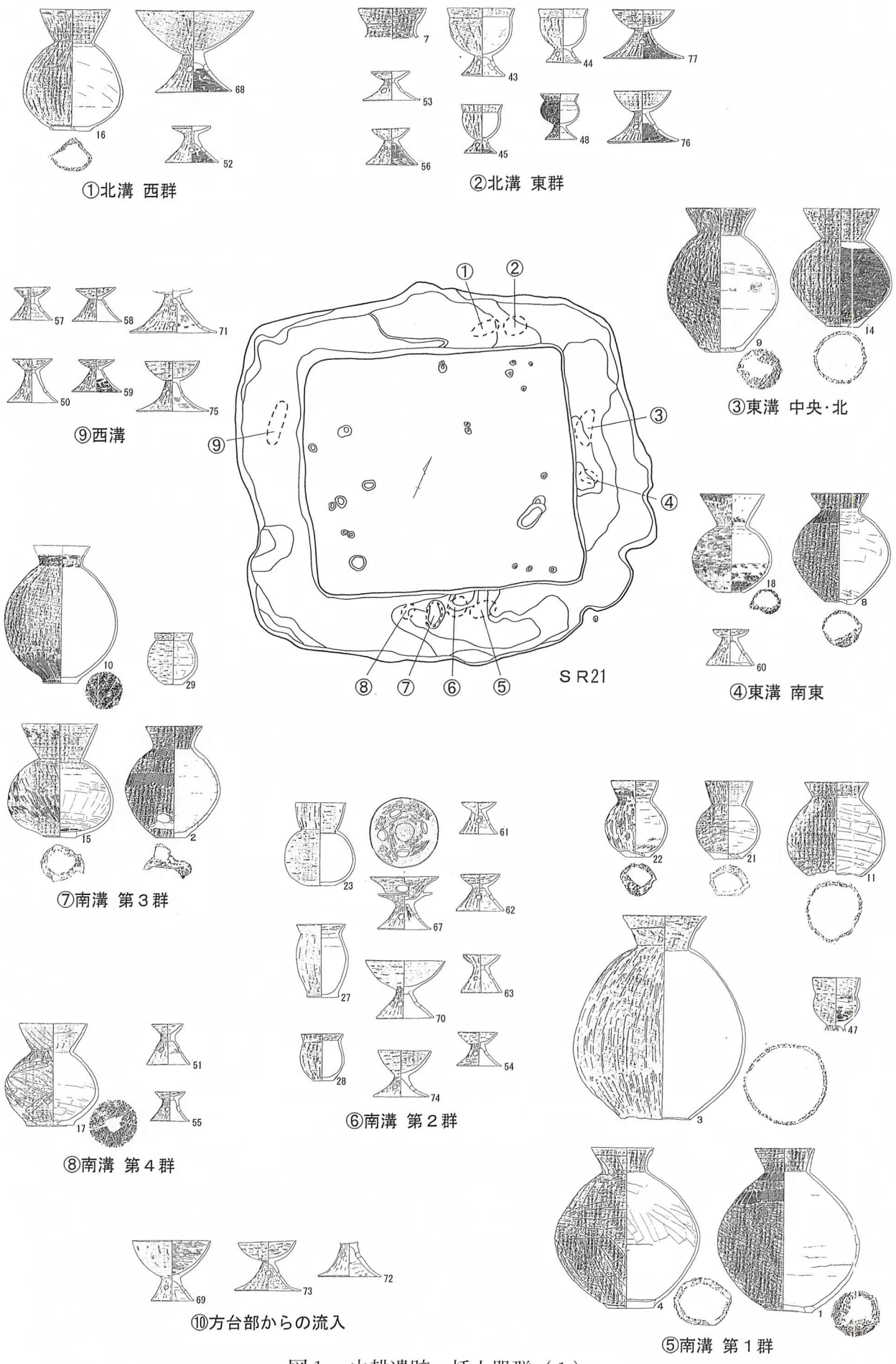


図１　中耕遺跡一括土器群（１）

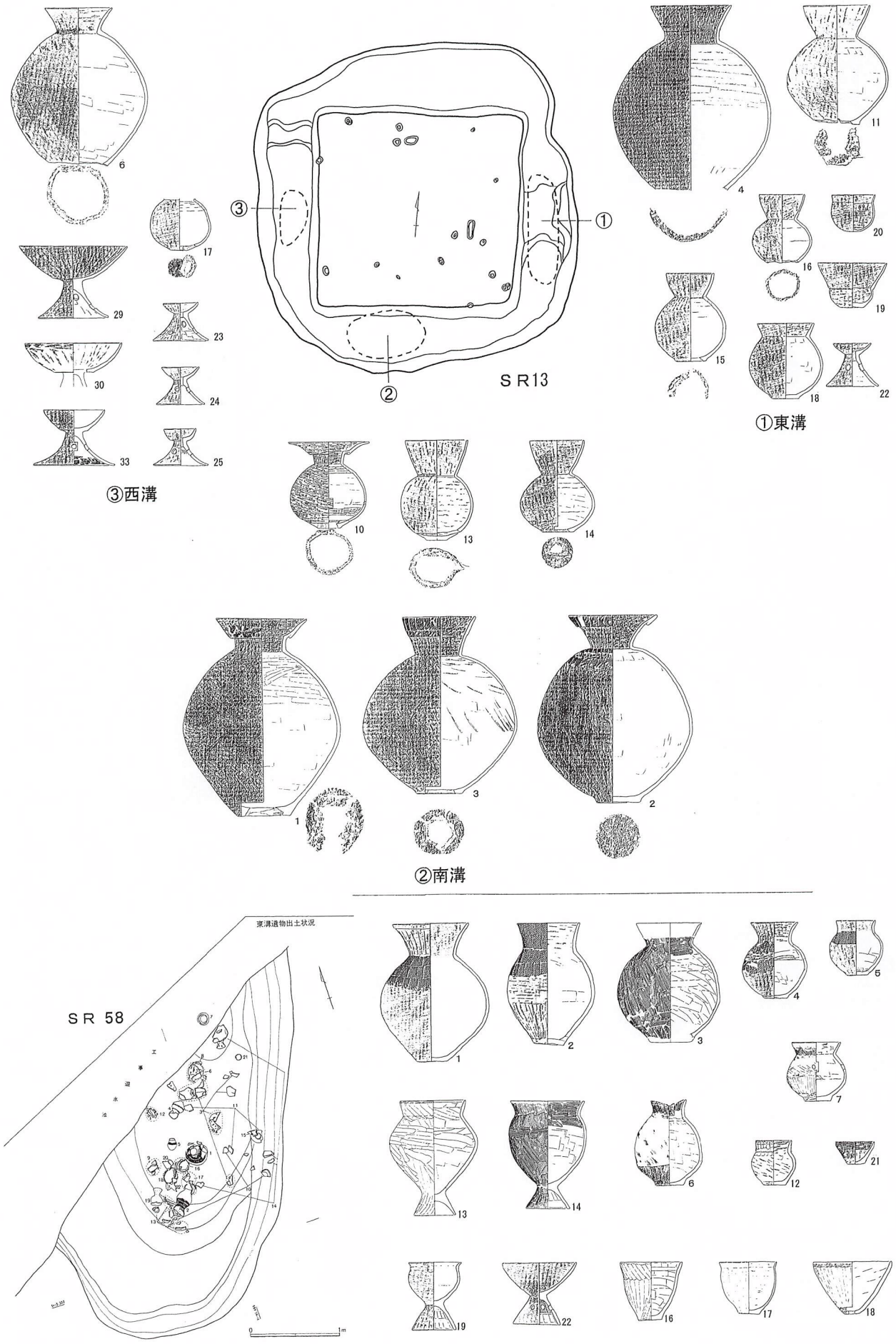


図２　中耕遺跡一括土器群（２）

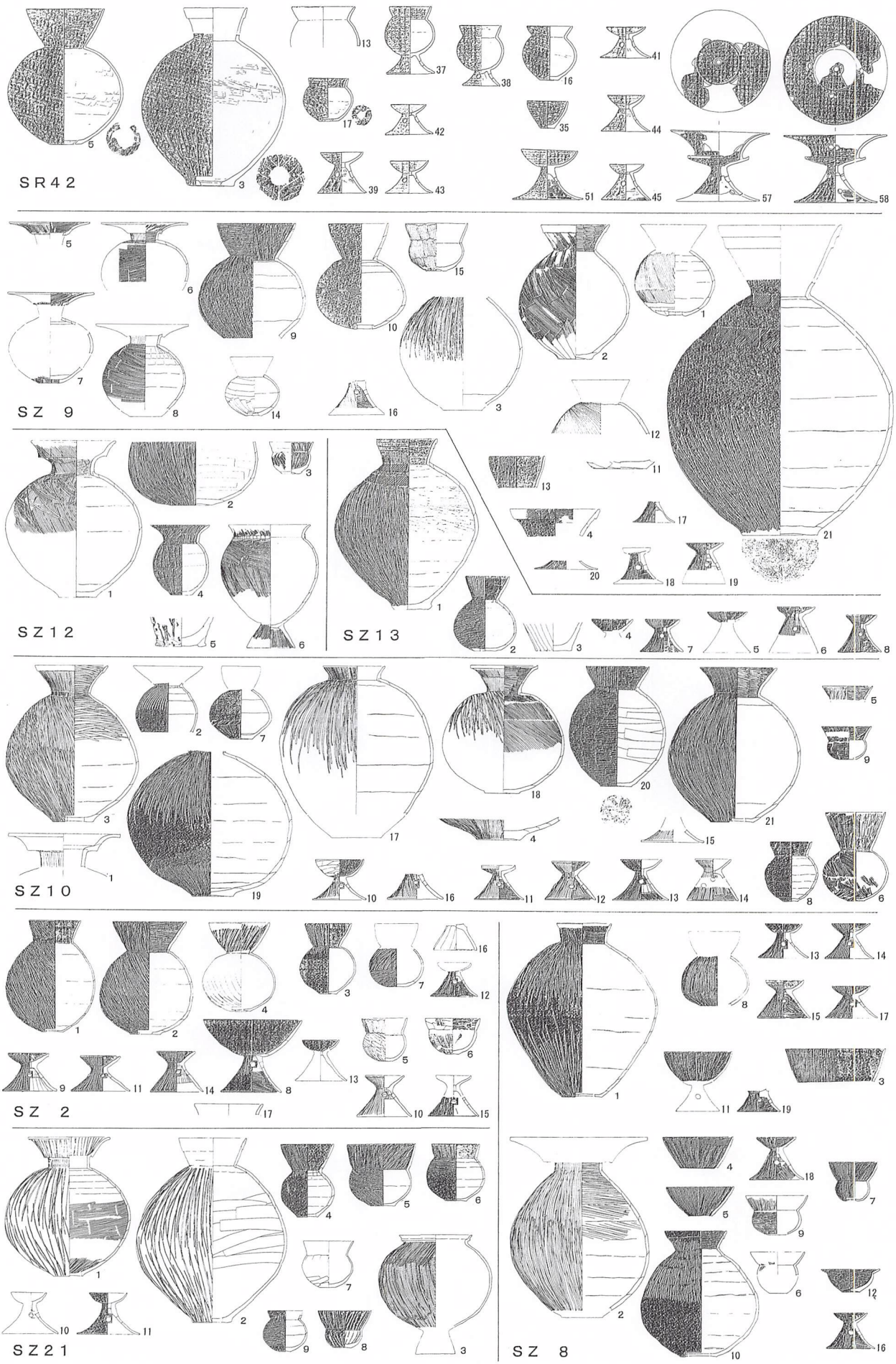


図3　その他遺構土器群

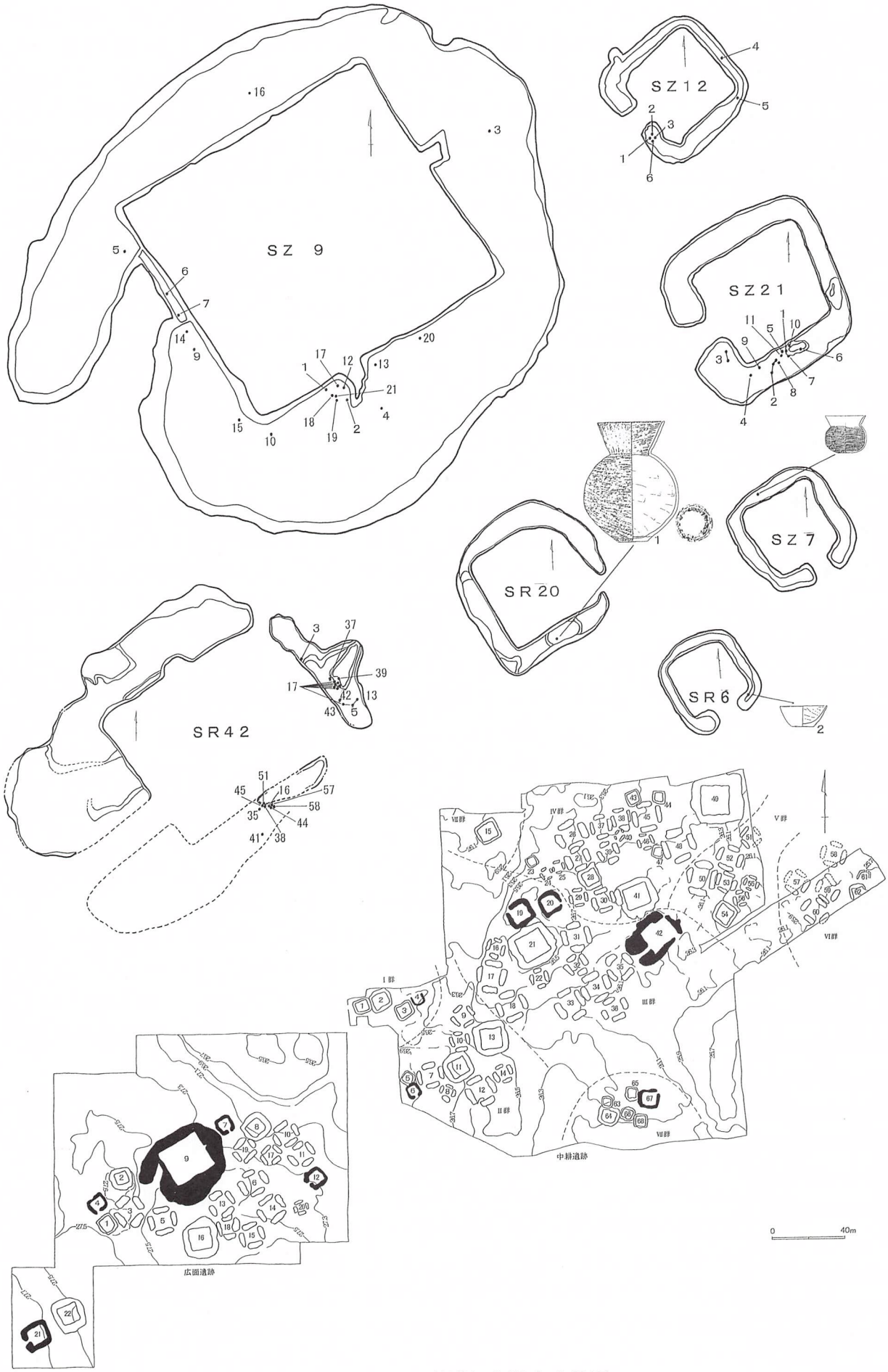


図4　C・D・E形墳と土器出土状況

が明瞭である。南側の溝のみから大・中型壺が出土する例は、ＳＺ11（Ａ形・Ⅲ期）南西溝〈壺Ｆ５（1）〉、ＳＺ13（Ａ形・Ⅱｂ期）南西溝〈壺Ｃ６（1）〉、ＳＺ20（Ａ形・Ⅲ期）南溝〈壺Ｅ４（2）、壺Ｅ３（1）、鉢Ａａ（3）〉などがあり、南（南東・南西）溝への意識が認められる。ＳＺ14（Ａ形・Ⅱｂ期）では、南西溝と南東溝南隅に、破砕土器が多いものの顕著な土器集中が認められることから、それに挟まれた南陸橋に方台部入口が想定されている（報告書72頁）。一方ＳＺ17（Ａ形・Ⅲ期）では四方の周溝に土器があるが、むしろ北東・北西溝に偏りがあり例外的である。

ＳＺ8（Ｂ形・Ⅳ期）では、南西溝〈壺？7（2）、壺Ａａ？（4・5）、壺Ｂ4（10）、広頸壺Ａａ1（6・9）、小型器台（18）〉、北西溝〈壺Ｂ6（1）、壺Ａａ？（3）、壺？（8）、小型器台（13・14・15・17）〉に2群のまとまりが見られ、南東溝〈広頸壺Ａa1（7）、鉢Ａｂ（12）、小型器台（16）〉の3点は、出土層位から本来南西溝の群と一体であった可能性が高いとされる（図3・報告書41頁）。ここに最低2回の葬送儀礼が想定されているが、2群に大型壺を含む点はＳＲ13に共通する。

ＳＲ21西溝に見られた土器の直線的配列は、他にＳＲ9、広面ＳＺ2などでも認められる。ＳＲ9（Ａ形・Ⅲ期）南溝〈壺Ａa3、壺Ａa2、壺Ａｂ2〉は、溝内土壙上に配置された可能性が指摘されている（報告書161頁）。ＳＺ2（Ｂ形・Ⅲ期）西溝〈壺Ａｂ3（1）、壺Ａａ3（2）、壺Ａａ2（4）、高坏（8）、小型器台（9・11・14）、甕（17）〉は、出土層位の所見から「方台部に据え置かれた状態に近い土器組成」とされ、北西コーナー〈広頸壺Ａa1（5）、鉢Ａｂ（6）、器台（10・15）〉の4点も本来一群である可能性を指摘されている（報告書22頁）。散在的ではあるが、ＳＺ6（Ａ形・Ⅲ期）東溝〈壺Ａａ1（3）、高坏（2）、小型器台（1）〉も似た状況が窺える。これらの主要器種は壺Ａａと供膳形態土器であり、土壙状掘り込み上のＳＲ21南溝2群などと共に、特定の供献スタイルを示しているように見える。

ＳＲ58に見られた四隅陸橋直下（溝隅）に土器が集中する例としてはＳＲ53（Ａ形・Ⅱｂ期）北溝〈広頸壺Ａｃ4、壺Ａｂ1、鉢Ａａ〉がある。こちらも「土砂の流入で同じ方向に倒れたような状況」から「この場で使用されたものが遺棄されたような状況」が指摘されている（報告書246頁）。

Ａ・Ｂ形に比べ、陸橋（前方部）が1箇所に限られるＣ・Ｄ・Ｅ形は、方台部出入口の推定が容易と言える。それらの遺構における土器構成・配置から、土器構成と出土位置の関係を考えたい。

中耕遺跡では、ＳＲ42（Ｅ形・Ⅳ期）、ＳＲ4（Ｃ？形・Ⅳ期）、ＳＲ6（Ｄ形・Ⅳ期・南陸橋）南溝〈鉢Ａａ（2）〉、ＳＲ19（Ｃ形・Ⅳ期・西隅陸橋）、ＳＲ20（同左・南隅陸橋）南溝〈壺Ａａ3（1）〉、ＳＲ67（同左・北東隅陸橋）があるが、Ｃ形墳の遺物は僅少である（図4）。

両遺跡墳墓群唯一のＥ形（前方後方形）と推定されるＳＲ42では、遺構の遺存状態は好くないが、前方部側面にあたる南溝と前方部正面にあたる東溝から土器群が出土している（図3・4）。南溝〈壺Ａｂ1、脚付広頸壺、開脚高杯、小型器台（3）、高杯状器台（2）、鉢Ｂａ〉、東溝〈壺？6、壺Ａａ5、広頸壺Ａｂ？、広頸壺Ａｂ1、脚付広頸壺、小型器台（3）〉。南溝は供膳形態主体の土器群、東溝は「遺棄または流入」とされるが、大型壺を含む貯蔵形態主体の土器群である。

広面遺跡では、ＳＺ4（Ｃ形・Ⅳ期・南隅陸橋）、ＳＺ7（Ｄ形・Ⅳ期・南東陸橋）、ＳＺ9（Ｄ形・Ⅲ期・南西陸橋）、ＳＺ12（Ｄ形・Ⅳ期・南西陸橋）、ＳＺ21（Ｄ形・Ⅳ期・西陸橋）があり、中耕遺跡の事例に比べ遺物が豊富である。

墳墓群最大で中心的存在であるＳＺ9は、方台部南西に斜行する陸橋、南東と北東中央に半島状の突出部をもつ変則的なＤ形墳だが、土器は陸橋上からその周辺、南東突出部周辺に集中する。陸橋と方台部を仕切る浅い溝中〈壺Ｅ？（6）、壺Ｅ2（7）、壺Ｅ2か（8）〉、北側直下溝中〈壺Ｅ？（5）〉、南側直下溝中〈壺Ａａ4（9）、壺？1（14）〉と、陸橋部周辺に小型有段口縁壺が集中するとともに、これらを含め焼成前底部穿孔壺が複数出土する、両遺跡では他例を見ない状況がある（図3・4）。他に南コーナー部〈壺Ａａ3（10）、広頸壺Ａa1（15）〉、南東突出部周辺〈壺？7（21）、壺Ｂ4（2）、

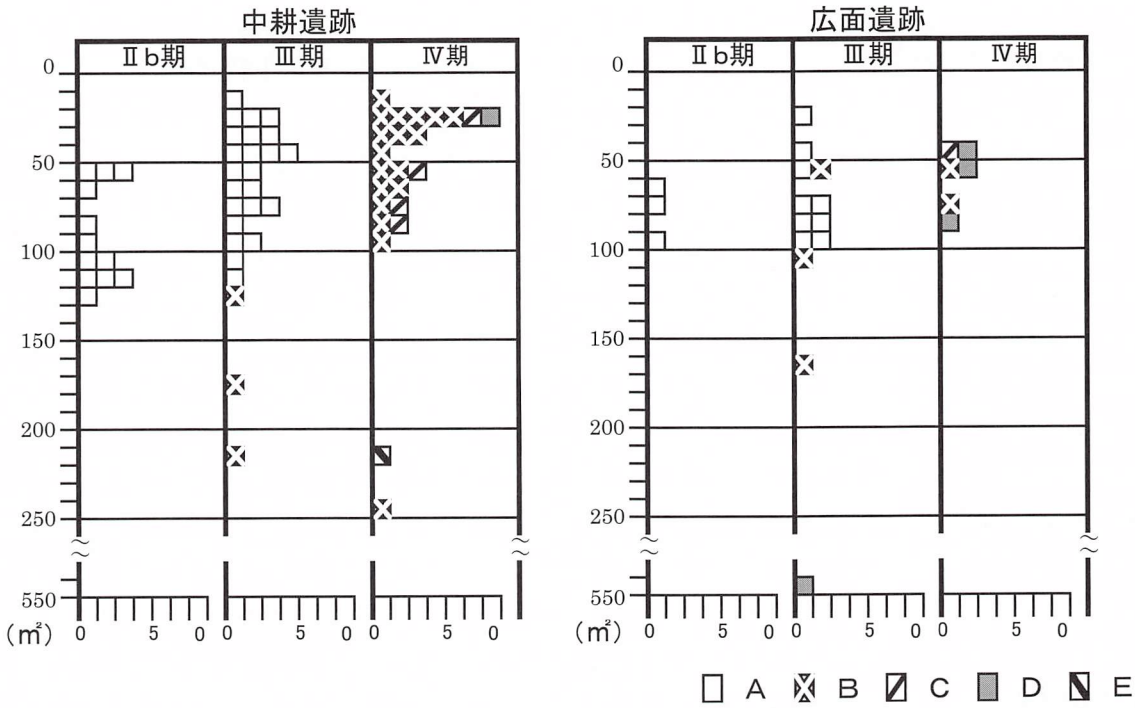


表７　墳墓形式時期別規模分布表

壺？2か（1)、壺Ｂ？（4)、壺Ａａ（13)、壺？（11・12)、高坏（17)、器台（18・19・20)〉、北東溝〈壺？5（3)〉、北西溝〈高坏（16)〉があり、大・中型壺を含む南溝土器集中の状況である。ＳＺ12では、陸橋南側直下に中型有段口縁壺を含む土器群〈Ｆ5（1)、壺？（2)、広頸壺Ａa1（3)、台付甕（6)〉がある。一方、北東溝ではＡａ2（4）が孤立的に出土している。ＳＺ21では、陸橋南直下〈Ｓ字甕（3)〉、南溝〈壺Ｂ7（2)、壺Ｅ4（1)、壺Ａａ2（4)、壺Ａｂ1（9)、広頸壺Ａa1（5・7・8)、広頸壺Ａｂ1（6)、器台（10・11)〉があり、陸橋周辺の土器集中は見られないが、南溝には大型折返し口縁壺、中型有段口縁壺を含む土器集中が認められる。ＳＺ4では陸橋東側一帯に遺物がややまとまっているが、遺存状態が悪く、帰属も明確でない。ただ「方台部上での破砕行為による結果」の可能性も指摘されている（報告書30頁)。ＳＺ7では以上の諸例と異なり、北溝〈広頸壺Ａｂ1（1)〉のみである。

以上、土器群の出土状況を見てきたが、遺構としては四辺が似た状況にあるＡ・Ｂ形墳でも、土器の出土状況は無遺物の場合も含めて様々である。南側に主たる遺物が偏る例がしばしば見られたが、周溝内遺棄であれ方台部転落であれ、祭祀の中心位置、墳墓の正面観を窺わせる。陸橋直下の集中出土も、そこが方台部出入り口、墳墓周囲の主たる場であることを示しているのだろう。陸橋部付近と南溝の意識はＤ形墳でも認められ、そこに墳墓祭器として発達した壺Ｅが配置される状況は、主たる場として重視されたことを示している。墳形の変化により土器群の状況が大きく変化したわけではなく、むしろ共通点が見いだされると把握したい。ここでは散発的な事例の列挙にとどまるが、このような個々の状況が群内で集積されれば、墓道の推定、小群単位の把握等、墳墓群の有機的な構造を復原する有力な手がかりとなるだろう。

9　中耕遺跡墳墓群と広面遺跡墳墓群

あらためて両遺跡墳墓群の時期的展開を振り返ると、Ⅱｂ期は中型Ａ形墳の時期であり、遺構規模格差は大きくない（表7)。土器はほとんどの遺構から出土し、個体数で優位な遺構はあるが、次期以降に比べ、遺構規模同様に差は小さい。Ⅲ期は、小型Ａ形墳と共に、少数の大・中型Ｂ形墳、超大型Ｄ形墳ＳＺ9が出現し、墳形に対応しつつ規模格差が顕著になる。中耕遺跡では、大型Ｂ形

墳であるＳＲ13・21に良好な一括資料が伴うのに対し、Ａ形墳はⅡｂ期に比べ土器を持たなくなり、両者の格差が際だっている。一方広面遺跡では、小型Ａ形墳の出現が中耕遺跡ほど顕著でなく、Ｄ・Ｂ形墳に土器が伴う一方、ＳＺ10など中・小型Ａ形墳にも多くの土器が伴う例があり、遺物格差も明瞭でない。Ⅳ期になるとＡ形墳は姿を消し、中耕遺跡では中・小型のＢ・Ｃ・Ｄ形墳とごく少数の大型Ｂ・Ｅ形墳になり、土器は中型墳以上に集中し、小型墳にはほとんどない。広面遺跡では中・小型のＢ・Ｃ・Ｄ形墳が小規模な群を構成するが、Ｄ型墳が半数を占める。40㎡未満の小型墳はⅢ期同様見られない。土器は多く伴う傾向が続いており、少なくとも60㎡未満の墳墓が土器を持たない中耕遺跡の状況とは明らかに異なっている。中耕遺跡墳墓群では墳墓間格差の広がりが時間的傾向としてとらえられ、広面遺跡では、ＳＺ9の出現を見るものの、それを除く格差はそれほどはっきりしないと言えるだろう。

土器の器種構成では、両墳墓群とも墳形と共に吉ヶ谷式土器の名残を残している。その影響は、壺に多く残る。弥生壺がそのまま型式変化したようなものが多いが、注目されるのはＳＲ33南溝〈壺Ｃ2（1・2）〉例で、口縁部形態を重視して壺Ｃとしたが全体像は壺Ａａ2であり、古墳時代祭器として注目した形式とも融合する根強さを示している。一方、古墳時代祭祀を特色づける土器群について見ると、広面遺跡では中耕遺跡に比べ有段口縁壺Ｅが多い。小型広頸壺では、中耕遺跡では在来的な広頸壺Ａｂ、広面遺跡では小型丸底系の広頸壺Ａａが優勢である。これらの点では、広面遺跡の土器群に、古墳時代的な外来要素がより強く見える。中耕遺跡ではＳＲ13に壺Ｅと広頸壺Ａａ、ＳＲ42方台部に壺Ｅが見られることから、それらが大型墳に集中した結果、全体に存在が希薄になった可能性もあるだろう。当初、遺跡名を異にする2者の総括を念頭に置いたが、様相の違いもまた浮かび上がり、群としての比較検討はさらに必要と認識される。

本稿は、着手当初、古墳時代墳墓群内での祭祀の具体像を探ることにより、集落内・住居内での祭祀との関連を見いだすことを目標とした。村落集団の墓地であろう両遺跡は、それに格好の材料であった。しかし困難は予想され観察の結果報告に終わる危惧も念頭にあったが、果たしてそうなった。「投棄」等、造墓後長期間に渡る行為を墓域内での活動として積極的に評価し、墳墓が意識されていた時間内に位置づけることにより、出土土器の全体的な検討をさらに進めていく必要があるだろう。そのために、当初の目標とは逆に、墓地の外に目を向け、竪穴住居、土壙、溝等出土の一括資料から、土器使用祭祀のあり方について手がかりを集積させる作業を、今後試みたい。

註

（註1）遺構の部分名称（主に周溝）は、基本的に報告書に従った。そのため、四方位から向きがずれていても「東西南北」で示されたものがある。なお、広面遺跡報文では本文と表で一部に混乱が認められたため、出土位置図等を参考に推定した場合がある。

（註2）八王子市鞍骨山遺跡住居9の例が古くから著名だが、竪穴住居跡内から粗製の小型壺がまとまって出土する例がしばしば見られる。中耕遺跡では、ＳＲ31例がこれに近い状況を示している。

《引用・参考文献》

論文等

石坂俊郎　2008「中耕・広面遺跡墳墓群と供献土器（1）」『埼玉県立史跡の博物館紀要』第2号
柿沼幹夫　2006「大きな方形周溝墓出土の超大型壺」『埼玉の考古学Ⅱ』六一書房
福田　聖　1990「方形周溝墓と儀礼」『埼玉考古学論集』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
福田　聖　2006「方形周溝墓・周溝の覆土と出土状況」『埼玉の考古学Ⅱ』六一書房
杉崎茂樹　1993『中耕遺跡』（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第125集
村田健二　1990『広面遺跡』（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第89集
八王子市谷野遺跡調査団　1971『鞍骨山遺跡』